

編集後記

わが国の現行の都市計画法が制定されたのは1968年のことで、2018年で50年となりました。また、旧都市計画法は1919年に制定され、2019年で100年となります。成熟期を迎えた日本では、今日的課題である少子高齢化・人口減少など環境変化に伴ない、近代都市計画のパラダイムからの転換が求められています。

滋賀県立大学環境科学部は、1995年、日本で初めてつくられた環境科学部であり、環境と調和した持続可能な社会の実現を担うパイオニアとして、四半世紀にわたり環境学を牽引してきました。現代日本の大きな転換期にあつて、環境学はあらたな地平に立っています。環境科学部年報23号の特集「環境を“調べる”」では、環境問題の解決と共生社会の創造に資する方法について、さまざまな観点から論考していただきました。

最後になりましたが、ご多忙にもかかわらず執筆いただきました皆様、誠にありがとうございました。

環境科学部年報委員会

委員長 轟 慎一
委員 吉山 浩平（環境生態学科）
平岡 俊一（環境政策・計画学科）
永井 拓生（環境建築デザイン学科）
高倉 耕一（生物資源管理学科）

環境科学部 環境科学研究科 年報第23号 環境を“調べる”

発行日 2019年3月31日
発行所 滋賀県立大学 環境科学部
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500
TEL 0749-28-8301
発行人 井手 慎司
印刷所 有限会社 田中印刷所

表紙写真

左上：京都府与謝野町（環境政策・計画学科、瀧氏提供）

左下：彦根野田沼での魚類調査風景（生物資源管理学科、大久保氏提供）

右上：西の湖のヨシを使った小さなドーム。伝統的なヨシ葺きの技法を調査し、球体にアレンジした。（黒目写真館撮影）

右下：平成28年（2016年）熊本地震（最大震度7）が環境に与えた影響を調べるため、熊本市内の湧水の調査を行っている様子（産業技術総合研究所、佐藤努氏撮影）

裏表紙写真

左上：電子顕微鏡で観察したミジンコ的一种 *Daphnia magna* の第2触角（試料：環境動態学専攻、高橋祥尚氏提供、写真：生物資源管理学科、原田氏撮影）

左下：近江八幡にある古民家内部の土間吹き抜けに、吊り下げられるように設置された糸の茶室「奇想天蓋」。（黒目写真館撮影）

右上：びわ湖を調べる実習調査船はっさか（環境生態学科、堂満氏撮影）

右下：地下水に関するヒアリングと水質調査（環境政策・計画学科、平山氏提供）